

＜先週の説教から＞

『ヘブライ④－俗物だけにはならないで』

武田真治牧師

創世記 25:19-34 ヘブライ書 12:14-17

今日の聖書箇所 14 節は、明治から大正、昭和の初期にかけてクリスチャンたちの生き方の指標となっていた言葉でした。即ち、文語訳聖書で「力(つと)めて凡(すべ)ての人と和(やわ)らぎ、自らきよからんことを求めよ」です。まさにその時代のクリスチャンたちは、いつもやさしく、柔和で、争いを好まず、自分を律してお酒やたばこを飲まず、清く生きるのが正しいとされていたように思います。戦後、口語訳(＝聖書協会訳)になって「すべての人と相和し、また自らきよくなるように努めなさい」となり、それらは“努力目標”であることが明確にされました。ところが、今回の新共同訳では「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい」と訳されました。結果、昔の“清く正しく生きる”ことが強調されるようになったと思えるのは私だけでしょうか？ この翻訳で問題なのは、原文には「生活」という言葉がないという点です。ここで「きよくなる」は原文でハギアスモスという言葉一つで、“聖化”とか“聖別”と訳される名詞です。これは次の節の「苦い根が現れてあなたがたを悩まし」と言われている“罪の惑わし”から“免れること＝聖別されること”を指しているのです。決して、表面上の振る舞いや生活の上で清廉潔白な生き方をすることが求められているのではなく、むしろ自分の心の中や周囲にある“苦い根＝イエス様によって切られて駆除されたのに残っている過去の罪の残がい”からまたそろ罪の芽が出てきてしまうことを見抜いて、戦っていくことであり、そのために主の助けと癒しを求めて行くことではないでしょうか。それを「追い求めよ」という勧告の言葉でしょう。むしろ表面的に清く正しい生活や行動をしていることが信仰生活だと思いついて、自分の中にまだ巣くう「苦き根」を見逃してしまい、簡単に「苦い根が現れてあなたがたを悩まし」てしまい、自分だけでなく周りの信徒たちも巻き込んで「多く

の人が汚れること」になる危険性があるように思います。実は「すべての人との平和を」という勧めも、私たちが戦うべき相手は、自分や他人やこの世の中に巣くっている“苦き根＝罪”なのであって、決して“人”ではないという意味とも採れます。ただし、その際に考えるべきことはそれらの“罪”との戦いは最終的には主によって“清められる”という点です。私たちのなすべきことは、自分の中や周囲にはびこる“苦き根”に目をそらすことなく向き合い、それから芽が伸びて来ることを少しでも防ぐことであり、そのためには罪を告白し“悔い改め”とイエス様に向かい“赦しと憐れみを求めて祈る”ことから始めて行くことではないでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 4月 12日(水) 20:00
II. 4月 13日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 求道者を覚えて
担当者: (水)坂田 (木)橋本
祈りに覚える人: 小草さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 12 女 50 計 62
祈祷会 I. 男 5 女 5 計 10 II. 男 2 女 11 計 13
日曜学校 幼稚科 3 小中 8 計 11
早天祈祷 3日 男 7 女 12 計 19、4日 男 8 女 11 計 19
5日 男 7 女 12 計 19、6日 男 7 女 12 計 19
7日 男 8 女 15 計 23

ハンナの会 4月11日(火) 10:30～

【次週主日礼拝】 4月 16日(日)

聖書: 出エジプト記 19:10～19、20:18～21
ヘブライ人への手紙 12:18～24

説教: 「ヘブライ④－生ける神の都」
武田真治牧師

讃美歌: 211(1)、32(1)、444(1と2)、
510(1～3)、29

【次週当番表】

司式: 飯田長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 茨木長老
献金: 小草 勝村 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 小杉 富澤 長田 橋本
北條

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・オリブの葉編集委員会 ・日曜学校教師会
・幼稚園理事会 ・聖歌隊練習

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

2023年 4月 9日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>